



修了生からの
お便り



現職教員の先輩方から 学んだことを日々生かして

上越教育大学の最大の良さはなんといっても現職教員とストレートマスターと一緒に学べることですよね。上越で大学院生になろうと思ったのはまさにそのシステムです。当時、情報教育やメディア・リテラシーについて問題意識をもって入学したものの、教育現場のことも研究のことも全くと言っていいほど何も知らない私に、優しく、時に厳しくご指導していただき、育ててくださったのは、まさに現場の先生方でした。

その教えは、教師になってようやく分かることができました。例えばある先生からは「掃除だけはしっかりと指導しよう。教室が乱れているクラスは荒れているから」ということを、経験を踏まえて教えていただきました。またある先生からは「子どもとの関係がよくないと、こちらが何を仕掛けたって身につかない。ここで学んだことを最大限生かすのであれば学級経営が基本だよ」ということを教えていただきました。研究を続けながら教師として成熟していくためには絶対的に必要な考えだと感じています。今は学校で研究主任として児童の情報

活用能力を育成するために校内研究のコーディネートを行いながら、自らの研究課題であるメディア・リテラシーの発展のために研究を行っています。NHK Eテレでは池上彰さんが様々なメディアの特性について解説してくれる小学生向けメディア・リテラシー番組「メディアのめ」の番組企画委員を務めています。撮影では子どもたちにわかりやすい表現の工夫について池上さんと委員の先生、スタッフの皆さんと議論しながら撮影を進めていきます。自分が携わった番組が放送され、「授業で使っていますよ」と声をかけられると、携わった者としての責任の重さとやりがいを感じます。

情報教育やメディア・リテラシーは、日々進化するICT機器にばかり注目が向かいます。メディアもそのように伝えます。当然それらも必要ですし、私もICTを多用します。しかし、本質的には「ものの方や捉え方、考え方を鍛える能力を育む教育」です。その本質を見失わず実践していけるよう、上越でたくさん先生から学んだことを忘れず実践していきたいと考えています。



佐藤 和紀
(さとうかずのり)

長野県出身。平成18年3月に学習臨床コース情報教育分野修了後、東京都小平市立小平第五小学校教諭を経て、東京都北区立豊川小学校主任教諭。5年生担任、研究主任。現在、NHK 学校放送「メディアのめ」番組企画委員、東京都教育委員会研究開発委員（情報教育）、上越教育大学学校教育実践研究センター研究員など。

